

(3) もっと輝くために～女性農業者を取り巻く課題と方策～

前節では、女性の基幹的農業従事者の数は減少してきているものの、認定農業者数や農業法人の女性役員が増加するとともに、農業委員や農協役員にも女性の登用が一定程度進んでいること、女性が経営に関与している経営体では収益性が高まる傾向が見られること等を記述しました。

一方で、社会全体あるいは国際的に見ても、女性農業者の働く環境や地域農業への参画状況には依然として課題があり、更なる取組を進めていく必要があります。ここからは、課題と今後の取組の方向性について記述します。

ア 女性が働きやすく、暮らしやすい農業・農村の環境整備 (農村の子育て世代では男性に比べて女性の減少が大きい)

農村地域の女性人口は近年減少しています。農村地域女性人口は、平成12(2000)年から平成27(2015)年までの間に12%減少し、1,268万人となっています。そのうち子育て世代である25～44歳の女性人口は、同期間で21.7%減少し246万人となっており、他の世代に比べて、減少が顕著であることが分かります。これは、農村地域では進学や就職を契機に都市部へ人口が流出するためと考えられます。また、同期間での農村地域女性割合には変化がないことから、人口減少は男女ともに同様に起きていることが分かりますが、子育て世代では女性人口割合が1.2ポイント低下しており、子育て世代では男性より女性の減少が大きいことが分かります(図表特2-23)。

図表 特2-23 農村地域の女性人口の推移

(単位：万人、%)

	平成12年 (2000)	平成27年 (2015)	増減率及び ポイント差 (%)
農村地域女性人口	1,442	1,268	-12.1
うち25～44歳	314	246	-21.7
農村地域女性割合	51.8	51.8	0.0
うち25～44歳	49.8	48.5	-1.2

資料：農林水産政策研究所「家族農業経営における女性労働力の現状と動向」
(平成30(2018)年)を基に農林水産省作成

(農村においては、家事や育児は女性の仕事と認識され、男性に比べ負担が大きい)

農村においては、依然として、家事や育児は女性の仕事であると認識され、男性に比べて負担が重くなっている傾向が残っています。総務省の社会生活基本調査¹によると、女性農林漁業者の一日の仕事・家事・育児の合計時間は7時間7分で、男性農林漁業者に比べ1時間19分多くなっています。一方、農林漁業以外の有業者の女性と比べても、女性の農林漁業者は家事の負担が49分大きくなっています(図表特2-24)。

1 総務省「平成28年社会生活基本調査」